

◇卒業論文要旨◇

(昭和54年3月卒業生)

房総半島における沿岸漁村の変貌

—岩和田・片貝両地区を事例として—


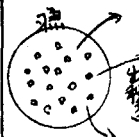
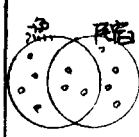



大木茂子

現在の日本の漁村は、資源問題、200カイリのしわ寄せ、人手不足等、様々な問題に直面している。その中で、房総半島の漁村が、現在に至るまで、どのようなインパクトを受け、どのように変貌を遂げたのか、そしてそれは、個々の漁村の特色によって、どのように異なっているのかを、事例研究を通じて明らかにすることが、本論文の目的である。

第1章では、県全体の水産業の特色を示し、さらに漁村(漁家漁業)の動向を明らかにするため、戦前から現在にかけての変化に注目しつつ、県下の漁業地域区分を行った。この地域区分より明らかにされた各漁村の経営形態の違いは、どのような条件の複合から成立したのか、さらに時代への対応にどのような差異を、生ぜしむるのかが、よく示されると思われる調査地域を選定した。この2地区は、最も顕著な違いを示す、海岸・海底地形を取り上げて、「磯浜集落」、「砂浜集落」として扱っている。第2章では、2地区を概観し、次ぐ第3・4章で、それぞれの漁業を詳述、イワシ不漁期・観光地化等への対応と漁村の変貌を述べた。第3章では特に、あま漁業について、その特殊性と地域差について、県下におけるアンケート調査を踏まえて考察した。そして第5章ではまとめとして、両地区の比較考察を試みた。これが下表である。

両地区には、農業は不振だが、磯根資源に恵まれた磯浜集落と、農業は盛んだが、磯根資源に乏しい砂浜集落という条件からくる、漁業に対する執着心・依存度の違いという前提がある。この差異が、イワシ不漁・観光地化という出来事に遭遇した際の、両地区の対応の違いを招く一因となっていることは間違いのないだろう。例えば、イワシ不漁期に、磯浜集落である岩和田では、零細な個人経営を主とする漁業への転換という道を選ぶ傾向がみられたが、砂浜集落の片貝では、農地改革も作用して、農業へ戻ったり、他産業に転業した例が多い。残った網元は、急速に近代化を進めていったが、漁場

両地区の就業構造の変化

	前提とする条件	イワシ豊漁期 (近世末〜昭和初)	イワシ不漁期 (昭和20年代)	観光化時代 (昭和40年代)
磯浜集落 (岩和田)	丘陵性→農業不振 岩 礁→磯根資源 豊富			
砂浜集落 (片貝)	平地→農業盛大 砂 質→磯根資源 無			

上の条件から、あくまでもイワシに執着せざるを得なかった。また、漁業のみに依存してきた岩和田では、漁業の持つ不安定性から脱皮するために、観光地化に伴う民宿を積極的に兼営することによって、生活の安定と向上を得る漁民が増えた。一方片貝では、漁業者は網元・漁夫共に専業者でなければ周年操業は行えないので、民宿を兼営する者は、少数の採貝船経営者を除いてはまずいない。

このように対応に違いはあるにしろ、2つの出来事は、それぞれの地区の社会構造を大きく変えた。特に観光地化という現象は、新たな就業機会の提供と都市的諸要素の搬入とにより、“生業”としての漁業から“職業”としての漁業へと、漁民自身の漁業観を変えていく役割を果たしているのではないだろうか。今後、新たな漁業観は、沿岸漁村をどう変えていくのだろうか。

霞ヶ浦周辺出島村の農業

大河内 裕 子

茨城県は全国有数の農業県である。にもかかわらず、その内容は従来後進的であるとの指摘を免れなかった。しかし近年の農業をとりまく環境の変化に伴ない、茨城農業も質的転換が迫られている。常磐線近くに位置し、土浦・石岡に隣接する出島村は、このような動きを敏感にとらえて商品部門を導入・発展させている。

(1)研究の目的

出島村の農業における選択的拡大の現状を把握するとともに、導入された商品部門が台地集落と湖岸集落ではまったく異なることに着目し、そのような違いが生じた理由を考察する。

(2)研究の枠組

まず、出島村の自然・人文環境について概観し、次に産業構造について農業・漁業をとり上げ、現在に至る過程及び現況を把握する。それによって農業地域区分を試みる。そして、先に設定した農業地域より湖岸集落2地区、台地集落1地区を選定して調査・研究し、農業の商品部門が発展する以前の集落の農家経営及び商品部門発展後の農家経営について比較考察する。最後に、以上のことから台地集落、湖岸集落の農家経営の違いについて、

①自然条件②商品部門導入以前③高度成長農家経営の変貌、の3点からまとめた。

(3)研究の結果

①自然条件

- a 湖岸集落…開析の進んだ複雑な地形の狭い台地及び霞ヶ浦縁辺の沖積低地よりなる。
- b 台地集落…平坦で広い台地及び河川流域の狭い沖積低地よりなる。

②農家経営の原型（商品部門導入以前）

- a 湖岸集落…畑地が狭くふつう畑作に不向きな畑が多いので水稲依存。農業収入の不足分は漁業収入で補う。
- b 台地集落…農業に依存するしかなく、農業専業率は極めて高い。狭小な水田を補うために土地生産